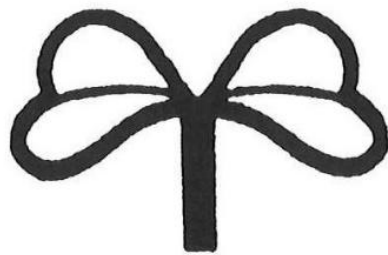


令和8年度

社会福祉法人 福島福祉施設協会

福島ふたば保育園

(重要事項説明書)



は じ め に

社会福祉法人 福島福祉施設協会 福島ふたば保育園では、「こどもの最善の利益のため、その人権を尊重し、保護者と地域と共に、豊かな人間性と生きる力をはぐくみます」の保育理念のもと、一人ひとりのお子さんを大切に、心豊かに楽しく生活できるよう保育をしていきます。

家庭を離れての保育園生活は、お子さんにとっても保護者の皆様にも心配なことがあると思います。保育園は、家庭的で親しみのある、ゆったりとした安心感のもてる雰囲気をつくり、その中で子どもたちが、健全な心身の発達を図れるよう支援していきます。

これからお子さんは、家庭と保育園という二つの場所で生活をしていくことになります。お子さんが喜んで登園し保育園生活を楽しむことができるよう、家庭と保育園が連携をとり合いながら、お子さんの成長を見守っていきましょう。

【保育園と家庭の役割】

保育園では……………保育に関わる大人やたくさんの友だちと遊んだり生活したりする中で、
多くのことを学んでいきます。

家 庭 で は……………家族との温かいふれあいや、地域社会とのつながりの中で、生活の基礎を
育んでいきます。

＊ 家庭と保育園とが、それぞれの役割を十分認め合い、お互いの理解と信頼のうえで、保育を進めていきましょう。

保 育 園 の 役 割

- 保育園は児童福祉法に基づき、保育を必要とするこどもの保育を行い、その健全な心身の発達を図ることを目的とする児童福祉施設であり、こどもの最善の利益を考慮し、その福祉を積極的に増進することに最もふさわしい生活の場でなければなりません。

保 護 者 の 責 任

- 保護者は児童福祉法に言われているように、こどもが家族に心から愛され養護を受け、「人」として心身ともに健やかに育成されるよう努めましょう。

目 次

特定教育・保育の開始に際して、あらかじめ当園が説明しておくべき事項は次の通りです

1	保育園の概要	P3
2	設置者の概要	P3
3	保育園の理念及び方針	P4
4	保育園の開園日、開園時間及び休園日	P5
5	保護者の負担金について	P5
6	職員体制について	P6
7	主な施設整備計画	P6
8	保育園の一日	P7
9	年間行事予定表	P8
10	保給食（食育）及び衛生管理等について	P9
11	緊急時等における対応方法	P10
12	非常災害対策	P11
13	事故防止のための取り組みについて	P11
14	虐待防止等の取り組みについて	P12
15	職員研修等について	P13
16	保育内容に関する相談・苦情窓口等について	P13
17	カスタマーハラスメントについて	P13
18	健康管理について	P14～15
19	保育園との連絡について	P15
20	送迎について	P15
21	個人情報の取り扱いについて	P16
22	巡回相談について	P16
23	保育所児童保育要録について	P16
	子育てについて	P17～19
	発達の特徴	P20～22

1 保育園の概要

名称	社会福祉法人 福島福祉施設協会 福島ふたば保育園						
種別	児童福祉法第39条第1項に規定する保育所（認可保育所）						
施設所在地	〒960-1101 福島市大森字館ノ内69-1						
管理者氏名	園長 齋藤 玲子						
開設年月日	昭和26年4月1日						
連絡先	電話番号：024-545-4404 携帯番号：090-2796-7547 FAX番号：024-546-9780						
実施事業	◆児童福祉法第24条第1項の規定による保育 ◆特別保育事業及びその他関連事業 ☐ 延長保育事業 ☐ 障がい児保育 ☐ 乳児保育 ☐ 一時預かり保育事業						
利用定員	3号認定			2号認定			合計
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	
	10人	14人	15人	17人	17人	17人	90人

2 設置者の概要

名称	社会福祉法人 福島福祉施設協会
法人等種別	社会福祉法人
所在地	〒960-8166 福島市仁井田字龍神前2-1
代表者氏名	会長 八島 洋一
連絡先	電話番号：024-545-3221
設立年月日	昭和56年1月8日
基本理念	人とともに地域とともにいきいきと ～ ㊦だんの㊧らしの㊨あわせ ～ 本法人は、福島市の総合福祉施設の経営団体としての役割を十分に認識しながら、施設利用者が心身ともに健やかに育成され、またはその有する能力に応じ自立した日常生活を地域社会において営むことができるように支援する。 社会福祉法人制度、介護保険制度、次世代育成支援等の各分野で改革が進められ、社会福祉法人を取り巻く経営環境が変化する中で、福祉サービスの質の向上を図るため、施設の合理的、能率的経営を行い、経営基盤を強化し利用者の要望に応えられるよう施設運営にあたる。

3 保育園の理念及び方針

保育理念	こどもの最善の利益のため、その人権を尊重し、保護者と地域と共に豊かな人間性と生きる力を育みます。
保育方針	1. 保育所保育指針に則り、こどもの人権を尊重し、その最善の利益のために保育する。 2. 笑顔あふれる温かい雰囲気の中で、こどもたち一人ひとりに寄り添い、心身ともに健やかな成長を育む。 3. 豊かな食を通して生命の大切さ、生きる力を培う。 4. 保護者とのより良い協力関係を築きながら、共に保育を進める。 5. 健康で安全な環境のもとで、養護と教育の一体的な提供を行う。 6. 子育てサービス・情報を提供する中で、地域との関わりを大切に子育て支援を行う。
保育目標	福島ふたば保育園 保育目標 心も体も健康な子ども 友だちとなかよく遊ぶ子ども やさしさと思いやりのあるこども 何事にも意欲的に取り組む子ども 各クラス年間目標 <つくし組（0歳児）> ・一人ひとりの欲求を丁寧に受け止め、生活リズムを大切にし、安全な環境の中で安心して過ごす。 ・触れ合いを大切にしながら、安定した信頼関係を築く。 ・探索活動を促し、身体の発達を援助する。 <つくし組（1歳児）> ・保育者と関係を築き安心して過ごす。 ・歩行が安定し、全身を使った遊びを十分に楽しむ。 <さくら組（1歳児）> ・簡単な身の回りのことを自分でしようとする。 ・保育者や友だちと一緒に好きな遊びを楽しみながら発語を促し、会話を楽しむ。 <たんぽぽ組（2歳児）> ・生活に必要な身の回りのことを自分で行う気持ちを持ち、出来る喜びを味わう。 ・好きな遊びをとおして、友だちと関わって遊ぶ楽しさを感じる。 ・言葉で自分の思いを伝えようとする。 <ひまわり組（3歳児）> ・季節を感じながら、その時々遊びを十分に経験し、友だちと一緒に遊ぶ楽しさを知る。 ・自分でやる意欲を大切にし、基本的生活習慣を身につける。 <ゆり組（4歳児）> ・基本的生活習慣を身につけ、自分でできる事を増やしていく。 ・生活に見通しを持ち、遊びや生活を進めていく中で、積極的に活動に関わりながら園生活を十分に楽しむ。 ・自分の気持ちを言葉で伝えたり、友だちや保育者の話を聞き、相手の思いに気づいたりしながら友だちと一緒に仲良く遊ぶ。 <ゆり組（5歳児）> ・保育園生活を楽しみながら、主体的に活動する。 ・友だちと協力し役割を決めたり話し合いながら、最後まで取り組み、達成感や充実感を味わう。 ・友だちや保育者の話をよく聞き、相手の思いを受け入れながら、自分の気持ちや考えを言葉で相手に伝える。

4 保育園の開園日、開園時間及び休園日

- (1) 開園日と開園時間 月曜日から土曜日まで 7時00分から19時00分まで
- (2) 保育時間 保育を必要とする事由や保護者の状況に応じて保育短時間・保育標準時間に区分されています。
保育短時間 8時30分から16時30分まで
保育標準時間 7時00分から18時00分まで
- (3) 延長保育 延長保育を実施しています。利用する方は「延長保育実施要綱」(別紙1)をお読みになり事務所までお申し出ください。
保育短時間 ① 7時00分から8時30分まで
② 16時30分から18時00分まで
③ 18時00分から19時00分まで
保育標準時間 18時00分から19時00分まで
- (5) 休園日 日曜日 祝日 年末年始 12月29日から1月3日まで

5 保護者の負担金について

- (1) 保育料 0 歳児～2 歳児は、保護者の市町村民税の課税状況と保育の必要量の区分に応じて「福島市利用者負担額(保育料)一覧表」をもとに決定されています。
3 歳児～5 歳児は、保育料が無償となります。
- 給食費 3 歳児～5 歳児は、主食費 1000 円/月 副食費 6500 円/月
を納入していただきます。
* 副食費には福島市より補助が出ております。(前年度は 4800 円/月でした)
* 副食費について保護者の市町村民税の課税額により支払いが免除される場合があります。
- 教材費 クラス毎に必要な教材があります。年度はじめ、または年度途中での購入をお願いいたします。(金額は教材注文書に記載しております)
- 延長保育料 1 回 200 円
- (2) 納入 保育料は福島市に納付します。(口座振替日は利用月の平日末日)
給食費・教材費・延長保育料の支払いは保育園に口座振替となります。
(口座振替日は利用翌月の原則 25 日)
現金は釣銭のないように必ず職員に手渡ししてください。

* 保育料等についての詳細は、福島市幼稚園・保育課幼保認定係が発行する「令和 8 年度保育施設利用案内」をご覧ください。

6 職員体制について

職名	人数	職務	備考
園長	1名	施設の業務を総括し、資質向上を図る	
主任保育士	1名	園長の命のもと保育の業務を掌理し、所属職員を統括指導する	
副主任保育士	2名	主任保育士の業務を補佐し、所属職員を統括する	
保育士	13名	保育計画を立案し、充実した活動ができるよう保育を行う	
栄養士	1名	献立作成及び給食運営全般を行う	
調理員	2名	献立に基づく調理業務及び衛生管理を行う	
調理員兼用務員	1名	献立に基づく調理業務及び衛生管理を行う 園内の清掃や整備を行う	
パート主事	1名	円滑な園運営ができるよう園長、主任保育士の事務処理のサポートを行う	
嘱託医	1名	園児の心身の健康管理を行うと共に健康診断の実施、保健衛生に関する相談指導を行う	かさい小児科クリニック
嘱託歯科医	1名		大森たぐち歯科クリニック

- * 上記表は、厚生労働省児童福祉施設の設備及び運営に関する基準に基づく配置基準を満たし、より充実した保育体制を整えるための職員を配置したものです。
- * 開園時間中は、最低2名以上の保育士を配置し、保育にあたります。

7 主な施設整備計画

内 容	理 由
プール防水塗装工事	経年劣化により塗装がはがれ、安全面においても危惧されるため
給食室及び食品庫の木枠のステンレス板への張り替え工事	経年劣化、湿気、結露による傷みにより塗装や木材の剥がれがあり、安全面、衛生面において心配があるため

メモ

8 保育園の一日

時間	つくし・さくら・たんぽぽ組	ひまわり・ゆり組
7:00	開園 あいさつ 持ち物の準備 健康観察 自由あそび	
8:30	おむつ交換、排泄 手洗い	片付け 排泄 手洗い
9:00	朝のあいさつ	朝のお集まり 当番活動
9:15	おやつ	
9:30	保育計画による活動 各クラスで活動	保育計画による活動
		
	おむつ交換、排泄 ・手洗い	
10:50		
11:00	昼食	排泄、手洗い
11:10		昼食
11:30	食後の口、手拭き おむつ交換、排泄、着替え	
12:00	お昼寝	
12:30		排泄、着替え
13:00		お昼寝
14:30	おむつ交換、排泄 着替え、手洗い	排泄、着替え 手洗い
15:00	おやつ	おやつ
15:30	帰りのあいさつ	帰りのお集まり
16:00	当番保育士のもとでの活動	当番保育士のもとでの活動
	～お迎え順に降園～	
18:00	延長保育	
19:00	閉園	

9 年間行事予定表

(1) 主な年間行事（予定）

4月 進級式 ★入園式 ★新年度オリエンテーション	5月 交通安全教室 尿検査 ★親子遠足（以上児）	6月 プール開き ★保育参観懇談会
7月 ★夏まつり 七夕	8月 プール納会	9月 ★運動会
10月 チャレンジデイ （ゆり組あおバッチ）	11月	12月 ★クリスマス発表会 （ゆり・ひまわり・たんぽぽ） もちつき会
1月 だんごさし ★保育参観懇談会	2月 節分	3月 ひなまつり お別れ会 ★満了式 修了式

- * ★印は保護者参加の行事です。是非ご参加ください。
- * 行事日程等の詳細は別紙をご覧ください。（別紙2）
- * 予定は都合により変更になることがありますので、ご了承ください。

(2) その他行事

毎月実施するもの 誕生会 避難訓練 リトミック

保健計画によるもの	身長、体重計測	月1回
	定期健康診断	年2回
	歯科検診	年1回
	尿検査（3歳以上児）	年1回

10 給食（食育）及び衛生管理等について

食育目標	○ おなかがすくリズムのもてることも ○ 食べたいもの、好きなものが増えることも ○ いっしょに食べたい人がいることも ○ 食事づくり、準備にかかわることも ○ 食べものを話題にすることも
給食 (昼食・おやつ・補食)	乳幼児の発達段階を踏まえ、健全な発育に必要な栄養量のほか、嗜好、季節及び行事等を考慮し、自園調理で完全給食を提供しております。
栄養摂取量	◆ 1～2歳児 460キロカロリーを目安に給食を作っています。 3～5歳児 540キロカロリーを目安に給食を作っています。 ◆ 体が小さい乳幼児は一度にたくさん食べられないため間食が重要な栄養補給となります。そのため3歳未満児は午前のおやつがあります。
献立等	栄養士が作成した健全な発育に必要な栄養量のほか、嗜好、季節及び行事等を十分に考慮した献立をもとに、新鮮で安全な食材を使用し自園調理を行っております。 なお、毎月月末までに翌月の献立表を配信及び配付、展示食ケース掲示版でお知らせするとともに、毎日の給食を展示します。
食物アレルギーの対応	「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」に基づき適切に対応いたします。必要書類は保育園にありますのでお渡しいたします。 ① 毎年一回「アレルギー疾患に関する調査」を行います。 ② アレルギーのある場合は主治医から「アレルギー疾患生活管理指導表」「食物アレルギー用給食実施・解除申請書」書いてもらいます。 ・ 除去…食品によるアレルギーがある場合は、医師の診断を受け、医師の指示書等必要書類をお渡しします。その上で除去食を提供します。 ・ 解除…アレルギーが改善され解除された場合も、医師の指示に従い家庭で試していただき、異常が見られない場合、保育園でも解除となります。 ・ 薬やエピペンの必要がある場合には、「与薬に関する主治医の指示書」を提出してください。
衛生管理等	◆ 職員の健康診断を年1回以上、調理（調乳を含む）従事者の検便を毎月実施します。 ◆ 納入業者の食材自主検査の実施と報告を依頼しております。 ◆ 調理した食品の保菌検査を行っております。 ◆ 「社会福祉法人福島福祉施設協会栄養士会 給食危機管理マニュアル」に基づいた給食施設・設備の管理、衛生の保持、食品の取り扱い、異物混入の対応、調理従事者の健康管理などを実施し、安心・安全・おいしい給食の提供に努めます。 ◆ 給食を提供できる時間は10時30分から12時00分までです。通院などで登園が遅れる場合はご注意ください。

11 緊急時等における対応方法

対応方法	◆ お子さんに体調の急変が生じた場合その他必要な場合は、速やかに園児の保護者又は医療機関（嘱託医を含む）への連絡を行う等の必要な対応をいたします。 ◆ 保護者への連絡は「緊急時連絡票」に記入された連絡先にいたします。必ず連絡のつく電話番号をご記入ください。（①から順に連絡をいたします） ◆ 通院が必要と判断した場合は、保護者に連絡し了解を得て指定の病院、又は下記の病院への通院をいたします。場合によっては保護者の方に来ていただくこともあります。 ◆ 保護者と連絡が取れない場合には、お子さんの身体の安全を最優先いたします。	
救急・消防	管轄	福島南消防署信夫分署
	所在地・連絡先	福島市上鳥渡字寺北13-1 024-593-1900
警察	管轄	福島県警察福島警察署
	所在地・連絡先	福島市上町7-31 024-522-2121
嘱託医	病院名	かさい小児科クリニック（医師：笠井肇）
	所在地・連絡先	二本松市油井字福岡161-1 0243-22-8800
嘱託歯科医	病院名	大森たぐち歯科クリニック（医師：田口圭介）
	所在地・連絡先	福島市大森字中町16-5 024-572-6700
外科	病院名	太平寺整形外科クリニック（医師：菅野伸樹）
	所在地・連絡先	福島市太平寺字堰ノ上91-3 024-563-3544
眼科	病院名	さとう眼科（医師：菅野浩之）
	所在地・連絡先	福島市大森字島ノ内69-17 024-544-6833
耳鼻科	病院名	まるベリー耳鼻科（医師：桑畑直史）
	所在地・連絡先	福島市太平寺字町ノ内69-1 024-529-6550
総合病院	病院名	済生会福島総合病院
	所在地・連絡先	福島市大森字下原田25 024-544-5171
総合病院	病院名	しのぶ病院
	所在地・連絡先	福島市大森字高畑31-1 024-546-3311

* 「緊急時連絡票」について（別紙3）

入園時に保護者の皆様から、緊急時連絡票を記入し提出していただいています。この連絡票は緊急時及び災害時に利用する大切な個人情報書類となります。ひとつの項目でも変更が生じた場合は、必ず園へお知らせください。変更の記入をしていただきます。お子さんをお預かりする上で、保護者の皆様と連絡を取り合うために重要なものとなりますので、ご協力をお願いします。

* 「健康保険証の廃止に伴う児童生徒本人の被保険者資格の確認方法」について（新入园児のみ）

マイナポータルに表示される被保険者資格情報の PDF ファイルを印刷したもの、または、資格情報のお知らせの写しをお預かりさせていただきます。（別紙4）

12 非常災害対策

防犯設備	県警ホットライン（非常通報装置）、防犯用カメラ 夜間警備（玄関・園庭・つくし組2台）
防災設備	自動火災報知設備 誘導灯設備 消火器 避難器具
消防計画 届出年月日	福島南消防署信夫分署 令和7年10月28日 届出済
防火管理者	主任保育士 二階堂 敦子
定期訓練	◆ 避難訓練、消火訓練：毎月1回以上実施 ◆ 総合防災訓練（引取訓練を含む）通報訓練：毎年1回実施
災害発生時の 対応等	保護者等に引き渡すまでの間（開所時間外を含む）お子さんを保護します
災害時安否 情報メール	災害時の保育園の対応についてはルクミーのアプリに配信し、お知らせいたします
避難場所	第一避難場所 保育園園庭 第二避難場所 しのぶ病院 *状況により保育園に留まっている場合もあります

13 事故防止のための取り組みについて

社会福祉法人福島福祉施設協会保育所会の安全計画（別紙5）及び事故防止マニュアルに則り、事故防止のために常にこどもの活動を把握し、以下の活動においての配慮事項に従い年齢やそれぞれの発達に合わせ対応してまいります。

【活動】 登園・クラス別の活動・沐浴、プールあそび・給食及びおやつ・午睡・与薬・降園

* 乳幼児突然死症候群（SIDS）について

全年齢とも保育士の目視確認に加え、ルクミーの午睡チェックシートを使い午睡時の事故防止に努めています。0歳児については乳幼児突然死症候群（SIDS）予防のため、センサーを使用しております。睡眠中のこどもの呼吸の状態を測定して万が一の異常がある時に知らせてくれる機器です。使用に関しては同意書をお渡しいたします。

* 保険に加入しております

独立行政法人日本スポーツ振興センター、あいおいニッセイ同和損害保険株式会社……保育園の管理下におけるこどもの災害（負傷、疾病等）に対して、災害共済給付の支給があります。

* 避難訓練の実施

職員が安全管理に関わる研修に取り組み、周知、実施をして子どもたちの安全を守ります。また、毎月ごと避難訓練ではこどもたちに分かりやすい防災・防犯の指導を行っていきます。

14 虐待防止等の取り組みについて

体制整備等	入園児の虐待防止及び人権擁護等を図るために、関係機関との必要な体制の整備を行うとともに、職員に対する研修その他の取り組みをいたします。
緊急時の対応	お子さんに不適切な養育の兆候が認められる場合、その他必要な場合は、児童虐待の防止等に関する法律その他の関係法令等に従い、関係機関へ通告等を行うほか、関係機関と連携し必要な対応を行います。

【児童虐待の防止等に関する法律】

- 第5条 学校、児童福祉施設、病院その他児童の福祉に業務上関係のある団体及び学校の教職員、児童福祉施設の職員、医師、保健師、弁護士その他児童の福祉に職務上関係のある者は、児童虐待を発見しやすい立場にあることを自覚し、児童虐待の早期発見に努めなければならない。
- 第6条 児童虐待を受けたと思われる児童を発見した者は、速やかに、これを市町村、都道府県の設置する福祉事務所若しくは児童相談所又は児童委員を介して市町村、都道府県の設置する福祉事務所若しくは、児童相談所に通告しなければならない。

児童虐待の行為 ～保育従事者・教職員のための 児童虐待対応の手引き（改訂版）より～

- ・身体的虐待 … 殴る、蹴る、熱湯をかける、溺れさせる、逆さづりにする、タバコの火を押しつける、頭部を激しく揺さぶる、冬に戸外に閉め出すなど身体に傷を負わせたり生命に危険を及ぼす行為。
- ・心理的虐待 … 脅したりおびえさせたりする、甘えてきても無視するなどの拒否的な態度、きょうだい間の極端な差別など、子どもの心に著しい傷を与える言動を行うこと。また、子どもをDV（ドメスティック・バイレンス＝夫婦(恋人)間暴力）に曝すことも当てはまる。
- ・性的虐待 … 子どもに性的行為を行うこと、性器や性交を子どもに見せること、また、強要して子どもの裸を写真やビデオに撮影すること。
- ・ネグレクト … 十分な食事を与えない、衣服や下着などを長期間ひどく不潔なままにする、おむつを替えない、病気やけがをしても病院に連れて行かない、乳幼児を車内に放置したり、家に残したままたびたび外出する、子どもが求めているのにスキンシップをしない・抱っこしないなど。

【その他の取り組み】

- 「保育所等の職員による虐待に関する通報義務等について」（令和7年10月1日施行）
保育所等における虐待等の不適切事案が相次いでいることを受け、こどもや保護者が不安を抱えることなく安心して保育所等に通う・こどもを預けられるような環境の整備に取り組んでおります。
- 「こども性暴力防止法」（2026年12月25日施行）
こどもを性暴力から守る環境づくりを進め、こどもと接する業務に就く人に性犯罪前科の有無の確認、性暴力のおそれがある場合はこどもと接する業務に就かせない取り組みを行っています。

15 職員研修等について

職員研修	保育の専門性等の向上を図るために研修計画を策定し、職場内及び外部研修の受講に努めます。
自己評価	職員による保育の内容等に関する「自己評価」「人権擁護のためのセルフチェックリスト」を毎年1回以上実施し、保育の質の向上に努めます。
第三者評価	◆ 認証評価機関による「第三者評価」を定期的に受審します。 ◆ 当保育所の受審結果は、福島県ホームページ福祉サービス第三者評価事業よりご覧いただけます。

16 保育内容に関する相談・苦情窓口等について

保育園では、利用者等からの苦情に適切に対応する体制を整えております。保育園に対する苦情や改善要望がございましたら、遠慮なく主任保育士・園長にご相談ください。

また、保育園に話しづらい場合には、「第三者委員による苦情解決」の相談体制も整備されていますのでご利用ください。

その他、利用者アンケートを行っております。アンケート実施の際は忌憚のないご意見をお聞かせ願います。アンケートの結果は公表させていただいております。

保育園

受付担当者	二階堂 敦子（役職：福島ふたば保育園 主任保育士）
解決責任者	齋藤 玲子（役職：福島ふたば保育園 園長）
連絡先	024-545-4404 090-2796-7547

第三者委員

氏名	矢吹 稔
連絡先	024-546-2255
氏名	大河内 恵
連絡先	024-567-3526
氏名	斎藤 幸子
連絡先	024-545-3859

【第三者委員による苦情解決について】

この苦情解決制度は、社会性や客観性を保持し、保育園利用者の立場や権利を守りながら福祉サービスの質を高めることを目的としています。苦情の申し出を契機に問題の早期発見・早期解決を図ろうとするものです。第三者委員の連絡先は、保育園事務所前に掲示してあります。

17 カスタマーハラスメントについて

当協会ではカスタマーハラスメントに対する行動指針を策定しております。各関係機関とも連携をはかり対応いたします。（別紙6）

18 健康管理について

- (1) 乳幼児は免疫力が十分でないため、集団で長時間過ごす保育園では、病気にかかったり、体に異常があらわれたりすることがあります。以下の症状が見られたときは、医師の指示を受け、元気な状態に回復してから登園しましょう。(参考:「保育所における感染症対策ガイドライン」こども家庭庁)

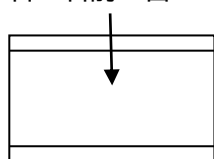
発熱 ・ 24 時間以内に 38℃を超える発熱がある場合 ・ 解熱剤を使用している場合
下痢 ・ 24 時間以内に複数回の水様便がある場合 ・ 食事毎に下痢便が出る場合
・ 機嫌が悪く元気がない、顔色が悪くぐったりしている等の症状がみられる場合
嘔吐 ・ 24 時間以内に複数回の嘔吐がある場合
・ 食欲がない、機嫌が悪く元気がない等の症状がみられる場合

* **発しんや目の異常(目やに、目の充血、まぶたの腫れ)** は感染のおそれがあるため、医師の指示を受けてから登園してください。

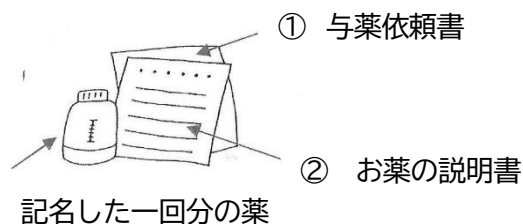
- (2) 保育園での与薬の代行は必要最低限にしたいと考えております。やむを得ず持参される場合は以下のことを守ってお持ちください。

- 「与薬依頼書」(別紙 7) に記入し、「お薬の説明書」と「一回分の薬」を一緒に袋に入れて職員に手渡してください。

ジッパー付きの袋 (A5 サイズ程度)
クラス名と名前を書いてください



①～③を一緒に入れる



- 医療機関から処方された薬をお預かりします。以下の薬はお預かりできませんのでご注意ください。

- ・ 保護者の判断で持参した薬
- ・ 以前に処方された薬 (医師の判断がなければお預かりできません)
- ・ 市販薬、解熱剤、座薬、鎮痛剤

- 受診時には医療機関で、保育園に通っていることを医師に伝えてください。

- 気管支拡張テープなどの貼るタイプの薬を使用して登園する場合は、必ず保育園にお知らせください。テープには名前を記入してください。

- (3) 保育中に体調不良が見られた場合には、保護者にお知らせをします。状況によってはお迎えをお願いすることがあります。
- (4) 学校保健安全法では、感染性の病気にかかったときは出席停止の指示をしなければならないことになっています。保育園においてもこれを準用していきます。また、登園する際には福島市こども未来部幼保企画課・幼保支援課「医師の意見書」(別紙 8) を提出してください。
- (5) 感染症にかかった後の登園再開については、福島市こども未来部幼保企画課・幼保支援課より示されています「登園のめやす」(別紙 9) をご覧ください。
- (6) 家族に感染症が発生した場合は、まん延防止のため速やかにお知らせください。
- (7) 感染症等の情報や感染症対策については状況に合わせてその都度通知いたします。

- (8) 虫歯を予防するために、昼食後、お茶を飲む習慣から「ぶくぶくペ」のうがい、3歳前後から歯磨きを行っています。4・5歳児は歯磨きに加えフッ化物（ミラノール）洗口をしています。フッ化物洗口については同意書をお渡しいたします。（料金はかかりません）
ご家庭では歯磨きと大人の仕上げ磨きを励行して、健康な歯を目指しましょう。

19 保育園との連絡について

- ① 家庭やお子さんの状況に変更（住所・就労先・勤務時間・電話番号・家族の異動・出産・育児休業・退園等）があった場合は速やかにお知らせください。福島市に提出する書類は保育園にあります。
- ② 欠席や登園が遅くなる場合は9時までにルクミーまたは電話にて連絡を入れてください。連絡がない場合には保育園より確認の電話を入れさせていただきます。
- ③ 送迎者や送迎時間の変更のある場合には、必ず保育園に連絡してください。その際は、園が速やかに対応できるようにルクミーまたは電話にて連絡願います。保護者の連絡先がいつもと変わるときも忘れずにお知らせください。
- ④ 登園時は保育室に入り、朝の支度やロッカーの補充などをお子さんと一緒に済ませて、お子さんの健康状態等必要なことを伝えお子さんをお預けください。降園するときも保育士に声をかけてからお帰り下さるようお願いいたします。
- ⑤ 保育園からの連絡（連絡帳、園だより、掲示物等）や緊急のお知らせがルクミーで配信されますので忘れずに目をとめてください。

20 送迎について

- ① 送迎の際は、必ず保育園の駐車場をご利用ください。（別紙10）
路上駐車は禁止とさせていただいております。ご理解とご協力をお願いいたします。
- ② 駐車したら、エンジンを切り、必ず鍵をかけましょう。
- ③ 車の乗り降り、道路横断の際は、必ず保護者の方と手をつないで送迎をしてください。
- ④ チャイルドシート、ジュニアシートは必ず着用しましょう。
- ⑤ 保育園門扉の開閉は必ず大人がしましょう。
- ⑥ 駐車場内での事故等については十分に気をつけてご利用ください。

21 個人情報の取り扱いについて

- 個人の情報を収集する際には、利用目的を明確にした上で収集を行います。使用につきましては「個人情報使用同意書」を提出していただいております。(別紙 11)
- 個人情報は正確かつ最新の状態に保つよう努め、また、漏えいがないよう適切に責任を持って管理いたします。個人情報を保有する必要がなくなり次第速やかに消去、廃棄いたします。
- 保育園行事などの際に個人で撮影したビデオや写真などを、外部への提供や SNS になどに投稿する場合は、映っている人が特定されないようにして下さい。

項 目	利 用 目 的
緊急時連絡票	保護者の方の勤務状況や連絡先・緊急時の連絡先把握のために使用します。保育園より病院受診の際に持参します。
保育 ICT・研修サービス (ルクミー)	お子さんの成長の記録や、保育園の様子や家庭での様子、連絡事項の共有のため使用します。配信等をシステムで管理し使用します。
写真	保育園のホームページとルクミー、テレビや新聞社からの依頼に応じて写真を掲載することがあります。

22 巡回相談について

心理士や言語聴覚士等の専門家による巡回相談を保護者の承諾を得たうえで行い、保護者の育児相談に応じたり保育上の助言を受けたりしながら保育を実施しています。巡回相談日には、保護者も参加できます。

23 保育所児童保育要録について

厚生労働省告示の「保育所保育指針」では、保育所に入所しているこどもの就学に際し、市区町村の支援の下に、こどもの育ちを支えるための資料として「保育所児童保育要録」を保育園で作成して就学先の小学校に送付することを定めています。保育園に在園し、保育園を卒園して小学校に入学される児童について、下記のとおり保育園が「保育所児童保育要録」を作成し、保育園から小学校に送付しますので、ご了解をお願いします。

○ 保育所児童保育要録の目的

保育所児童保育要録は、児童の担当保育士が保育士としての専門性を持ってこどもの育ってきた過程を振り返り、こどもの姿や発達の状況を的確に捉えて記載します。これによりこどもの育ちを次のステージ(小学校)へとつなげることを目的としています。

○ 個人情報の保護に関する取扱い

保育所児童保育要録は、児童の氏名、生年月日等の個人情報を含んでいるため、個人情報の保護に関する法律を踏まえた取扱いにより、目的外には使用いたしません。

- 保育所児童保育要録の他に、就学サポートシート(福島市)があります。就学サポートシートは、お子さん一人ひとりの成長・発達の歩みを大切に、学校生活へのスムーズな移行を支援するために、保護者の方と保育園がともに作成するものです。詳しくは、保育園にお尋ねください。

子育てについて

健康に過ごすために

健康は生活の基本です。こどもにとって心や体が発達していくうえで、生活のリズムを整えていくことはとても大切です。

- 規則正しい生活 ○ 思いきり体を動かして遊ぶ
- 楽しい食事 ○ 十分な睡眠や休息

これらが満たされ心も体も安定して健康に過ごせるように、こどもの生活を 24 時間であらえ、家庭と保育園との連携を密にして生活リズムを整えましょう。

食 事 “体づくりはまず食事から”

- 朝ごはんを食べることによって体も脳も目覚めます。朝ごはんを食べて登園しましょう。
- 育ち盛りのこどもは十分な栄養をとることが大切です。できるだけいろいろな食品に触れバランスのとれた食事を取りましょう
- 食事は楽しく食べてこそ、より栄養になるとも言われています。家族でゆったりと楽しい雰囲気の中食事をするよう心がけましょう。

睡 眠 “早起き早寝、寝る子は育つ”

- 早起き早寝の習慣で健全な心と体を育てましょう。
- 決まった時間に気持ちよく眠ることができるように環境を整えましょう。

運 動 “戸外であそびましょう”

- 外気に触れて体を動かして遊ぶことは運動機能の発達はもちろん、骨の発育を促し体を丈夫にし、病気への抵抗力を高めるうえで大切です。体を動かして遊ぶことを心がけましょう。

薄 着 “薄着で丈夫な体を”

- こどもは新陳代謝が活発です。活動しやすく心地よく過ごせるよう薄着を心がけましょう。
- 肌に直接触れる衣類は、汗を吸収しやすい素材のものを選びましょう。

事 故 “こどもは危険に対する予測がつきません”

- やけど、誤飲、転落によるケガや事故等がないよう、大人が十分注意し子どもの安全を守りましょう。
- 大人が交通ルールとマナーを守り見本を示し、交通事故からこどもを守りましょう。

明るく思いやりのあるこども・意欲的なこどもに育つために

こどもは豊かに成長する力をもっています。

全身を使って遊んだり、歩いたり走ったり、五感を使った遊びや体験をとおして、自分で考えて行動することや友だちや様々な人との関わりを学びます。その中で喜んだり悲しんだり感動したりがまんしたり相手を思いやる気持ちが育ちます。

- こどものやってみよう、試してみようという意欲をできるだけ認めながら、やってはいけないことはきちんと教え、危険のないよう見守っていきましょう。
- こどもが話しかけてきたらしっかり聞きましょう。その体験がこどもの聞く力、話す力、考える力を伸ばします。
- 喜んだり感動したりする経験や、身近な大人の優しい言葉かけ、日常のさりげない思いやりなどによって、豊かな情緒が日々の生活の中で養われます。
- こどもの生活の中でもスマートフォン・タブレット・ゲーム機器などが身近なものになりました。便利で簡単に使えるようになったなかで、こどもの成長へのデメリットも心配されています。使用目的を明確にしたり使用時間を決めるなど、使用に関してお父さんやお母さんと約束をすることが大切です。こどもは実体験をとおした方が幼児期に必要なスキルを習得しやすいと言われています。人とかかわりや戸外での遊びはバリエーションが豊かで実体験には最適です。手で触れる・肌で感じる・目で見ると・言葉を交わすことで体と心を育てましょう。
- こどもは、友だち同士のぶつかり合いをとおして社会のルールを知り、友だちへの思いやりも育っていきます。大人の都合や感情でこどもをみるのではなく、こどもの気持ちを理解し見守ったり励ましていきましょう。
- こどもが“自分で”と言うときは、危険のない限り自分からやろうとする意欲を大切に見守りましょう。失敗しても怒らず、意欲につながるような言葉かけをしていきましょう。
- 「だめ」「いけません」「あぶない…」などの禁止ことばや「～しなさい」「早く早く」という命令的なことばを日頃使いがちです。「片付けしなさい！」というより「片付いていると気持ちいいね」や「〇〇するともっとよくなるよ」など、肯定的な言葉かけをすることはこどもの自発性を育てます。保護者の生活にこどもをあわせるのではなく、ゆとりをもった生活の工夫をしていきましょう。
- 自分の物や、みんなで使う物を大切にする気持ちを育てましょう。

よい習慣をつけましょう

人間の一生で一番成長のめざましい乳幼児期に、生活に必要な能力の基礎が育ちます。この時期に大人がなんでもやってみたり口を出しすぎたりするのではなく、必要に応じて手を貸し、時には見守ったりしながらよい習慣を身につけていけるよう援助していきましょう。

- 自分のことは自分でできるよう、着脱のしやすい衣類や足に合った靴を選びましょう。
- いつもきれいにしていると気持ちがよいという感覚は、清潔の習慣づけの第一歩です。
 - ・朝起きたら顔を洗い、髪をとかしましょう。
 - ・食事の前や、戸外から帰ってきたときは手洗い、うがいをしましょう。
 - ・衣類は毎日とりかえましょう。
 - ・爪は常に短く切っておきましょう。伸びすぎると不潔だけでなく、怪我につながることもあります。
 - ・髪の毛は衛生的にしましょう。
 - ・むし歯予防のために、歯をみがきましょう。(一日一回は大人が仕上げみがきをしましょう。)
- 日常生活の中で大人が進んで正しい言葉を使うよう心がけましょう。
 - ・おはよう、さようなら、ありがとう等の挨拶が気持ちよくできるようにしましょう。
 - ・「はい」「いいえ」等の返事がはっきり言えるようにしましょう。
- 快い一日を過ごすためには、朝の気持ちよいスタートが大切です。時間にゆとりを持つようにしましょう。
- 出かける前には持ち物をよく調べ、忘れ物はないかこどもと一緒に確かめましょう。

親子のふれあいを大切にしましょう

乳幼児期は親にまわりついて肌のふれあいや愛情をもとめる時期です。十分なスキンシップを持つことがこどもの自立につながります。短い時間でも心をこめて接していくことで親と子の絆を深めていきましょう。

- こどもは保護者の迎えを心待ちにしています。帰り道は、園でのできごとを聞くなど、楽しい気持ちで帰宅できるように心がけましょう。
- 休日は戸外で遊んだり絵本を読んだりするなど、親子でゆっくり過ごす時間をつくるようにしましょう。
- 日頃経験できない生活体験も大切です。こどもにあった過ごし方で親子一緒に楽しむ時間を大切にしましょう。

発達の特徴 (おおよその目安)

<0～3か月未満児>

- 目覚めている時間が増していく。
- 空腹やおむつが汚れるなど不快になると泣く。
- 動くものを目で追う。
- 人の顔をじっとみる。
- 大きな音に反応する。

<3か月～6か月未満児>

- 首がすわる。
- うつぶせ姿勢にすると頭を少し上げることがある。
- 自分の手や指をもてあそび、自分の指を口に入れる。
- ガラガラを持たせると振ってあそぶ。
- 声を出してひとりであそぶ。
- 音や声のする方に顔をむける。
- あやしたり話しかけたりすると笑う。
- 離乳食を食べ始める。(5 か月頃)

<6か月～9か月未満児>

- 寝がえりが自由自在になったり、お座りしたり、這い出したりと動きが活発になってくる。
- 遠くにある玩具をとろうとして腕をのばす。
- 歯がはえ始める。
- 知らない人を見ると表情を固くしたり、泣いたりする。
- 好きな人を見るとキャッキョと喜んで手をのばす。
- アーアー、ウーウー、マンマ等さかんに喃語を言うようになる。
- イナイ、イナイ、バアー等を喜ぶ。
- 離乳食が進み、一日二回食となる。

<9か月～1歳3か月未満児>

- 這い這いから、つかまり立ち、ヨチヨチ歩きをするようになる。
- 歯の数が増え、かんで食べるようになる。
- 気にいらないといらいらしたりじれて泣いたりして、自分の要求を強く表すようになる。
- 身近な人を見てニコニコしたり、相手になってもらうことを喜んだりするが人見知りもする。
- 好奇心が盛んになりいろいろな物に触れて遊ぶ。
- 名前をよばれると、そちらの方にふり向く。
- 大人のいう簡単なことばがわかり、片言が始まる。
- 小さいものを親指と人さし指でつまむ。
- 睡眠時間や排尿便の間隔が定まってくる。
- 離乳食が3回になる。(12 か月頃。おやつなどの補食は必要)

< 1歳3か月～2歳未満児 >

- こぼしながらも手づかみやスプーン、フォークを使って一人で食べようとする。
 - 歩行が徐々にしっかりしていく。
 - 身振りで要求をあらわすことが多い。
 - 大人の話しかけや、相手をしてもらうことを喜ぶ。
 - 他児への関心が増してくる。
 - 要求がとおらないとかみついたりひっかいたりすることがある。
 - こどもをとりまくまわりのものにすべて興味をもって手を出す。(誤飲に注意する。)
- (火気器具、ポット、ビニール袋、キャップ類、ボタン電池、化粧品、薬品、ボタン、磁石等)

< 2歳児 >

- 食事はこぼしたりするが、一人で食べられる。
- 食前、排泄後の手洗いなどは声を掛けられてするようになる。
- 簡単な衣服を脱ぎ着できる。
- 好きな絵本を読んでもらうと喜ぶ。
- 簡単な歌が歌えたり、音楽に合わせて体を動かしたりすることを楽しむ。
- 親、友だち、動物などのまねをすることが盛んになってくる。
- 日常生活に必要な言葉がだんだんわかり、言葉数が増す。
- 大人の言うことに「いや」と言ったり従わなかったりすることが多い。
- 何でも自分でやりたがる反面、できないと頼ったりすることもまだある。
- 自我の芽生えが、かんしゃく、八つ当たり頑固な行動となって表れてくるが多くなる。
- 友だちなどへの関心や関わりが増すことから、物の取り合いによるトラブルが多くみられる。
- 歩く、走る、跳ぶなど基本的な運動機能が伸びるとともに手、指の動作も巧みになってくる。

< 3歳児 >

- 歩く、走る、跳ぶなどの運動機能がしっかりしてくる。
- 手洗い、うがいができるようになる。
- 食事は一人で食べられる。
- 排便は一人でできるようになるが、大人の手助けを必要とする。
- 下着、洋服、パンツ、ズボン、靴下、靴などは脱いだり、着たり、履いたりができる。
- 簡単なきまりがわかるようになる。
- 友だちと喜んで遊び、少しのがまんはできる。
- 身のまわりのことに興味をもち「なぜ」「どうして」などの質問が多くなる。
- 自分の物と、人の物の区別ができる。
- 簡単なストーリーのある絵本を見たり、読んでもらったりすることを喜ぶ。

< 4 歳児 >

- 嫌いなものでも少しは食べようとする。
- 自分のことは自分ででき、簡単なお手伝いもする。
- 健康、安全など日常生活に大切なきまりを守ろうとする。
- 行動が活発になり、体をたくみに動かす運動が増える。
- 大人や友だちの言うことを理解しようとする。
- 自慢、喧嘩、好き、嫌いなどの感情をはっきりだすことができる。そのため、トラブルが多くなるが、そのぶつかりの中で他人の立場や要求が分かるようになる。
- 会話により生活が広まり、友だちと交流が豊かになる。
- ごっこ遊びや童話を好むようになる。
- 好奇心が強く盛んに質問するようになる。
- 自分なりのイメージを持って身近な素材を使って描いたり作ったりするようになり、感じたこと考えたことを表せるようになる。

< 5 歳児 >

- 日常生活のきまりや約束がわかり、分担した仕事をやりとおそうとする。
- 運動機能が発達し、力を合わせ集団競技やルールのあるゲームを楽しむ。
- 問題がおきた場合、大人に頼らないで、自分たちで解決しようとする傾向があらわれる。
- 自分と他の人との違いなどに気づくようになり、不当と思うことを、黙っていない。
- 友だちとつながりが深まり、集団活動の楽しさが増す。
- 知ろうとする気持ちが強くなり、身近な社会や自然の現象を正しくとらえようとして疑問をもち、工夫して解決しようとする。
- 日常生活に必要な言葉が使える、文字や数に対して興味をしめす。
- 絵本や物語などに親しみ、内容に興味を持ち、様々に想像して楽しむ。
- 身近な人との関わりの中で、思いやりやいたわりの気持ち、感謝の気持ちを持つ。

